



「空き地」の有効活用

広島でグランピングをしたという人の話を聞き、参考にしたいのは自身が中学生の時に体験したキャンプ。「古民家を借りて空き地にテントを張るキャンプの思い出が、自分の中に強く残っていました。遊休施設や耕作放棄地を有効活用しようと、温泉施設の跡地を活用して、周囲の人たちと岩倉ファームパークでのグランピングを企画しました」。

「使われていないもの」が持つ可能性

その後、使われていない倉庫を活用した施設「レインボー創庫広島」を会場に、廃材を利活用する会を始めます。「ちょうどその頃、僕自身が祖母の空き家の問題に直面し、空き家で悩む人が多いことを知りました。そこで、空き家の相続や使い方が分からず困っている人、空き家が欲しい人などを集め、専門家を呼び、空き家の具体的な活用方法を学ぶ会を始めました。住宅メーカーや家屋の解体業者なども集まり、各業界の各所に空き家の悩みが集約されていて、その情報を必要な人に届けることはすぐ役立つのではと思いました。『社会的な問題を解決する』

空き家に関する相談窓口として、相談者に適切な企業や空き家を紹介することが僕たちの仕事です」。

空き家の魅力

空き家に携わるようになって建物の勉強を始め、今はより深く建物の構造を学び、知見を広めているところだという安村さん。

「以前は、木造は古くて耐久性もなく時代に合わないと思いついていましたが、職人さんが昔からの手法で木組みした木造はとても強く、適切な状況で保存されていれば木は200年経っても腐らないんです。また、中山間地域の空き家は山の木をそのままの長さで使った壮大なものが多く、昔の人の知恵と技術に感動します。どんな仕事をしていて、何を依頼してほしいのか、そして、空き家の魅力を発信していく。また、今までは無かったような仕事という点で、次世代の人たちの参考になるよう、自分のキャリアを分かりやすく説明していけたらと思います。今後も社会的な問題の解決に取り組み、家族や子どもたちが安心して暮らせるまちづくりに関わっていききたいです」。

「東京にいたときは、オンラインで洋服を販売する仕事をしていましたが、仕事をする上で社会的な問題を解決したいと考えていました。洋服は年間何億枚も作っては捨てられています。『使えるものが処分される』という事実に対し、古い服を再利用して東アジアに送るという企画をしました。世の中の役に立って生きていくことは理想だなと感じたんです」。

その後、広島に戻った安村さんは、大野町商工会青年部での活動や地域でのボランティア活動を通じて、市の資源が見えてきたといいます。

「使われていないものを再利用する」という2つの考えで、空き家の活用を考える会社を始めました。空

二次元コードを読み込むと安村さんのインタビュー動画を見ることができますので、ぜひご覧ください (11月1日(木)~)。

電話での問い合わせが難しい人は
☎0829-1059

目の不自由な人のための「広報はつかいち」テキスト版を音声読み上げのために「広報はつかいち」ホームページに掲載しています。
■「広報はつかいち」のウェブサイト、デザイン図書、点訳本があります。問い合わせ先 社会福祉協議会 ☎0294

はつかいら人 vol.34 廿日市市で輝く人を紹介します

「KAZARI」代表 安村 通芳 さん (対厳山)

編集後記

今月の表紙は、ごみの分別に取り組むかわいい子どもたち。今月号の編集でごみのことを考え、お菓子の箱や洋服のタグなどの雑がみを紙袋に溜めてごみ減量に取り組むようになりました。さて、少しずつ寒くなり、お鍋が美味しい季節になりました。野菜をしっかりと、健康管理に気をつけていきましょう。

市制施行30周年記念誌を発行した関係で、阿品台東小学校40周年記念誌を作成した6年生のクラスに、2度ほどお話をしに行かせていただきました。10月20日の式典でお披露目された立派な記念誌を拝見して、児童たちの努力を感じ嬉しく思いました。創立40周年、おめでとうございました。 田坂 尚子

人のうごき 前月比

総人口	117,435人	(+61)
男	56,398人	(+3)
女	61,037人	(+58)
世帯	51,821世帯	(+55)

(平成30年10月1日現在、外国人を含む)